

天文学とプラネタリウム

第68回



今月のお題

難しく、面白い。



■六本木ヒルズとのコラボはまだまだ続きます！

新しい環境で改めて初心に戻る。
アカデミーヒルズでの講演会の様子をお届けします。



www.tenpla.net

高梨直紘 (東京大学)
平松正顕 (台湾 国立清華大学)

国立天文台の定期観望会に合わせて開催されている、大学院生らによる自主的な講演会「天塾(あまのじゅく <http://www.amanojuku.net/>)」。ここでは、大学院生や若手研究員が講師となり、それぞれが取り組んでいる最先端の研究について紹介しています。内容は大学院生が聞いても聞き応えのある簡単ではない、むしろ少し難しい内容となっていますが、好評を博し、既に開塾から7年目を迎えようとしています。ここで一貫している姿勢は、「難しく、面白い話を」というテーマです。不必要に簡略化せず、難しい用語も丁寧に説明した上で遠慮無く使う。それによって、大学院生らが取り組む研究の魅力を伝えたい、そんな場となっています。

天プラが行うさまざまな活動においても、この姿勢が共有されています。例えば、三鷹市の三鷹市立第四小学校で毎月1回行っている天文部活動では、例え難しい話題でも避けることなく、児童らに語りかける努力をしています。身近に理解しやすい話題だけでなく、例えば星の一生や宇宙の膨張なども積極的に取り上げます。難しい話題を取り上げること、面白くないこ

とは同じではありません。難しいけど面白い、そんな場を多く創り出していくことは、天プラにとって大事な目標のひとつとなっています。

アカデミーヒルズでの取り組み

そのような、「難しくても、面白い」講演会をもっと増やそうと、東京都心にあるアカデミーヒルズ(六本木ヒルズ40Fおよび49F)で、天文講演会の連続開催をこの夏から行っています。8月に5回、10月にも3回の講演会を行い、のべ600名の方に参加していただきました。初回に高梨がレビューを行った以外は、すべて各講演者が取り組んでいる最先端の研究の様子について語ってもらいました。スペースデブリから宇宙の果てまで、さまざまなスケールの話題があり、全ての回に参加された方もいたようです。

この講演会の特徴は、参加者層がたいへんユニークなこと。30~40歳前後の女性参加者の大半を占めました。他の場所で行う天文講演会では、総じてシニア層あるいは低学年層が中心となることが多い中、際だった特徴となっています。潜在的な需要があるにもかかわらず、こ



アカデミーヒルズで開催された講演会の一コマ。

れまで機会を提供できていなかったのだということに改めて気が付かせられました。講演の内容は決して簡単ではないのですが(例えば、銀河の一種であるライマンアルファエミッターに関する話題など)、講演会後にはいつも20~30分くらいにわたる質疑応答が行われ、熱心に聞いていただいたことがわかります。

もちろん、「難しいから良い」のではなく、「難しいけど良い」講演となるよう努力は怠ってはいけませんが、「難しいから避ける」必要はありません。天プラでは、今後も「難しくても、面白い」天文学の魅力を多に発信していきたいと思います。